

算数科学習指導案

指導者

日

時

令和7年11月13日

学

年

第1学年 27名

単

元

ひきざん

1. 単元について【ねらいと用いる既習、見方・考え方】

本単元は、小学校学習指導要領算数科第1学年A(2)「加法，減法」に位置付けられている。  
本単元では、「10とあと幾つ」という数の見方を活用し，減法の意味を考えたり，減法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができるようにするとともに，1位数の加法及びその逆の減法の計算ができるようにすることをねらいとしている。  
児童は，「のこりはいくつ　ちがいはいくつ」の学習において，具体的な場面を具体物を用いたり，言葉や図，式を用いたりして表現する数学的活動を通して，減法の意味や計算の仕方の理解を深めてきた。  
児童が新たな計算に出合ったときに，生活経験や既習の計算を活用して求めることができるよう，次の態度や力の育成に重点を置くこととする。  
・数の見方を工夫して問題を解決しようとする態度  
・問題解決した過程や結果を，具体物や図などを用いて表現し合い，互いの考えを理解しようとする態度  
・協働的に問題を解決する力

2. 児童（生徒）について【問いをもつ・自己調整の姿】

児童は，算数の問題場面に関心をもち，数図ブロックを用いながら考えを伝える学習に意欲的に取り組んできたことから，「どうしてその式になるのか」「どうしたら自分の考えを伝えられるのか」という問いをもつ姿が次第に増えてきた。また，『『ふえる・もらう』はたし算になる』『『たべる・つないでばいばい』はひき算』というように，キーワードから，見方・考え方をオリジナルモンスターに例えたり，解決するためのアイテム（方法）を選択したりしながら考え，計算してきた。しかし，中には立式はできても，どうしてそうなったのかを説明することに苦手意識をもつ児童もいる。場面や数量関係を捉え，身に付けたアイテムを用いて「説明できる」「伝えられる」児童を増やしていくことが課題になる。

目指す子どもの姿（目標）

単位（まとまり）・基準や数の性質，式や図などの表現に着目し，数や計算の意味を理解したり数量関係を捉えたりしている。  
また，それらを用いて論理的に考えたり，統合的・発展的に考えたりしている。

10のまとまりに着目し具体物や簡単な絵図などを用いて計算のしかたを考えている。

どんな演算を適用すればよいか考え，式に表したり図などを用いて，その演算に決定した理由を説明したりしている。

領域（本質）

単元

本時

3. 指導について【問いをもつ・自己調整の姿を引き出すための手立て】

【問いをもつ姿を引き出すために】

同じ時間に加法と減法の両方を扱うことで，それぞれの演算の決定に至る根拠を児童から引き出し，共有する。  
りんごとみかんの数量関係に着目して演算決定をする場面を提示し，ブロックや絵図を用いて考えたいくなる場を設定することにより，それぞれの立式の根拠を問うことから対話を生み出し，お話やブロック操作などで考えを説明したいという姿に繋げていく。

【自らの学びを調整し，問題解決する姿を引き出すために】

数，ブロックを用いた具体的な操作，図，言葉，式などを使い，表現方法を選びながら問題解決できるようにしていく。児童の考えの共有では，「この式になるわけは，」「図で考えると…」「〇〇さんの考えを自分も説明できるよ」などといった言葉で伝える場をつくる。その際，困った時にはいつでも活用できるようにノートやお助けゾーンを確認できるようにする。また，自分や友達や教材をつなぐ場を設定し，児童が発案したモンスター（考えるためのアイテム）を用いて解決を図っていく。10のまとまりに着目して計算を工夫したり，その過程を表現したりすることのよさや楽しさを味わわせたい。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①減法の意味について理解し，それらが用いられる場合について知っている。 ②求残や求差など，減法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができる。 ③「10が幾つ」や「10とあと幾つ」という数の見方などを用いると，2位数などの減法ができることを知っている。	①ある場面について，減法を用いることができるかどうかを，数量の関係に着目して，具体物や図などを用いて考えている。 ②日常生活の問題を，減法を活用して解決している。 ③「10とあと幾つ」という数の見方を用いて，計算のしかたを考えている。	①減法が用いられる場面の数量関係を具体物や図などを用いて考えようとしている。 減法の場面を身の回りから見付け，減法を用いて問題解決しようとしている。 ②減法を用いることができるかどうかを，数量の関係に着目して，具体物や図などを用いて考えようとしている。 減法の意味を理解するとともに，10のまとまりに着目して繰り下がりのある計算をしようとしている。

主体的に学習に取り組む態度の具体		
①問いをもつ	やってみたい	・数を知りたい。たしざん？ひきざん？ ・考えたことをアイテムを使って説明したい。 ・たし算・ひき算問題（絵本・紙芝居・カード）を作って，友達に紹介したい。
	なんでなんで？	・今までと何がちがうの？それとも同じ？ ・どうしてその式になるのかな？ ・これは，たし算でいいの？ひき算でいいの？
②自らの学びを調整し，問題解決していく	方法の選択	・ものを動かしながら話すと，よく分かるな。 ・この問題は，ブロックや絵図を使って説明したら，考えがよく伝わるな。 ・式や言葉を使って説明したら，考えを確かめられるかな。
	見方・考え方	・絵や図を用いて問題場面や数量の関係を捉え，演算決定をしたり式の表し方を考えたりしようとしている。 ・ものものとの対応させて，ものの個数を比べて考えている。 ・具体物や半具体物を用いて，比べている。 ・10といくつに着目して，表現したり考えたりしている。 ・「がったい」（ものが増える・くる）は，加法の意味である。 ・「ばいばい」（ものが減る・なくなる）は，減法の意味である。 ・「くっつけてばいばい」（つなげてとる）は，減法の意味である。

5. 単元計画（・は指導に生かす評価，○は記録に残す評価）

時間	学習活動	評価規準 （児童の行動・ノートを基に評価する）		
		知・技	思・判・表	主体的態度
1	・問題場面を式に表し，12-9の計算のしかたをいろいろ考える。	・①	○①③	評価していく 上記の態度を常に
2	・一の位からひけないときは，10のまとまりからひけばよいことがわかる。	○②	○③	
3 4	・減々法による計算のしかたを理解し，減加法と比べる。 ・14-6の計算のしかたをこれまでに学習してきた求め方をもとに考え，説明する。 ・ブロック操作を通して，減々法，減加法それぞれの計算のしかたを確かめる。	・②	・①③	



<p>T「どのアイテムがつかえそうかな？」</p> <p>C「これを伝えるには、文を○にしたら分かりやすい。」</p> <p>T「〇〇さんの気持ちがわかる？」</p> <p>C「わたしは、〇〇さんといっしょです。りんごとみかんをならべてかくと、式がわかったよ。」</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>T「今日の学習は、今までと『いっしょ』『ちがう』『にている』のどれかな。」</p> <p>C「馬が人にのってばいばいと同じだよ。」</p> <p>T「〇〇さんの気持ちがわかる？」</p> <p>C「わかるよ。だってモンスターは、くっつけてばいばいじんだよ。」</p> <p>C「りんごとみかんをくらべたから、くっつけてばいばいであってるよ。」</p>	<p>◇ものどものを対応させたり，図で表したりすることで，<math>10-4</math>であることを確認する。たくさんの考えの中で，自分の考えと「いっしょ」「にている」「このほうがもっとわかる」を名札で表す。</p>
---	--

本時で主に引き出したい「主体的に学習に取り組む態度」（可能性があるものに☆印）

主体的に学習に取り組む態度の具体		
① 問 い を も つ	や っ て み た い	☆数を知りたい。たしざん？ひきざん？ ☆考えたことをアイテムを使って説明したい。 ・たし算・ひき算問題（絵本・紙芝居・カード）を作って，友達に紹介したい。
	な ん で な ん で？	☆今までと何がちがうの？それとも同じ？ ☆どうしてその式になるのかな？ ☆これは，たし算でいいの？ひき算でいいの？
② 自 ら の 学 び を 調 整 し ， 問 題 解 決 し て い く	方 法 の 選 択	☆ものを動かしながら話すと，よく分かるな。 ☆この問題は，ブロックや絵図を使って説明したら，考えがよく伝わるな。 ☆式や言葉を使って説明したら，考えを確かめられるかな。
	見 方 ・ 考 え 方	☆絵や図を用いて問題場面や数量の関係を捉え，演算決定をしたり式の表し方を考えたりしようとしている。 ☆ものとものを対応させて，ものの個数を比べて考えている。 ☆具体物や半具体物を用いて，比べている。 ・10といくつに着目して，表現したり考えたりしている。 ・「がったい」（ものが増える・くる）は，加法の意味である。 ・「ばいばい」（ものが減る・なくなる）は，減法の意味である。 ☆「くっつけてばいばい」（つなげてとる）は，減法の意味である。